

ニュージーランド 赤肉キウイの新品種が販売シーズンを延長

[FreshPlaza 2025年12月10日](#)

ゼスプリは、ルビーレッドキウイフルーツの販売シーズン延長を目的とした新たな赤肉キウイフルーツ品種Red80の商業化を承認した。この決定は、前年にルビーレッドの供給量が倍増し、ニュージーランド、シンガポール、日本、中国本土、台湾、韓国及び米国で300万箱以上が販売されたことを受けたものである。

ジェyson・テ・ブレイクCEOは、この決定は同組織が行っている栽培品種ポートフォリオの拡大に向けた取組みを反映していると述べ、キウイフルーツ部門は競争が一層激しくなっており、ゼスプリの取引先はグリーン、ゴールド、レッドの各ラインにおいて安定的な供給を求めていると指摘した。

赤肉キウイフルーツはグリーンやゴールドよりも貯蔵寿命が短く、現在のルビーレッドの販売期間は約8週間に限られている。Red80は既存品種のRed19よりも成熟が遅く、より長期間貯蔵できる。両品種は前後して市場に投入され、より長い期間にわたり市場への供給を維持することが期待されている。

Red19は2019年に商業化され、ゼスプリがルビーレッドキウイフルーツを商業規模で初めて販売したのは2022年であった。流通は年々拡大し、現在では13カ国で販売されている。ゼスプリによると、ルビーレッド購入者の約30%はキウイフルーツを初めて購入する消費者である。

Red80は、ゼスプリと農業食品研究機構の共同事業であるキウイフルーツ育種センターによって自然交配で育成された。ゼスプリは現在、育種プログラムの下で、キウイフルーツ、キウイベリー及び花粉親品種を含む20品種を商業化前の試験にかけている。ゼスプリによると、品種の拡大は供給の選択肢を増やし、変化する消費者嗜好に対応することが目的である。

2026年には、100ヘクタール分のRed80のライセンスが生産者に提供される予定であり、これには既存のRed19の生産者向けの切替枠も含まれる。Red80の商業規模での販売は2028年に見込まれている。

南アフリカ マンダリンの最終生産量が当初予測を上回る

[FreshPlaza 2025年12月10日](#)

南アフリカの2025年マンダリンシーズンは、生産量が当初予想を上回って推移し、より高い水準で終了した。品目別専門グループはシーズンを通じた予測を上方修正し、最終的な梱包量は5,350万箱となり、当初予測の4,490万箱を19%上回った。

供給の増加は、ナドルコットとタンゴの果樹園が本格的な生産段階に入り生産量が増えたことに起因する。ナドルコットとタンゴは、樹齢1年～10年のマンダリン栽培面積の39%を占めており、これらが若い果樹の中で増えていることを示している。さらに、西ケープ州のオッリ品種の新しい果樹園や、北部諸州の若い中生交雑種(RHM系品種)の果樹園からの出荷量の増加も加わった。

センウェス地域及びボーランド地域の生産者は「非常に良好な収量」と「優れた」出荷量を報告しており、これがシーズン初期の予想を超える数量につながった。一部の地域では小玉化が指摘されたが、多くの地域ではサイズ2、1及び3(中玉～大玉)をピークとする好ましいサイズ分布が報告された。西ケープ州は2025年を、天候不順によって供給量が減少した前年のシーズンからの「回復期」と表現した。センウェス地域でも、2年続いた低収量の後に旺盛な着果を記録した。

輸出市場はこの出荷量の規模を反映した。最大の輸出先である欧州向けは1,600万箱、中東向けは660万箱であった。ロシア向けは390万箱から590万箱に増加し、アジア向け輸出も450万箱増加した。

2025年のマンダリンシーズンは、数量の増加が業界の計画・運営能力を試す年であったと評価されている。

出典: ProAgri